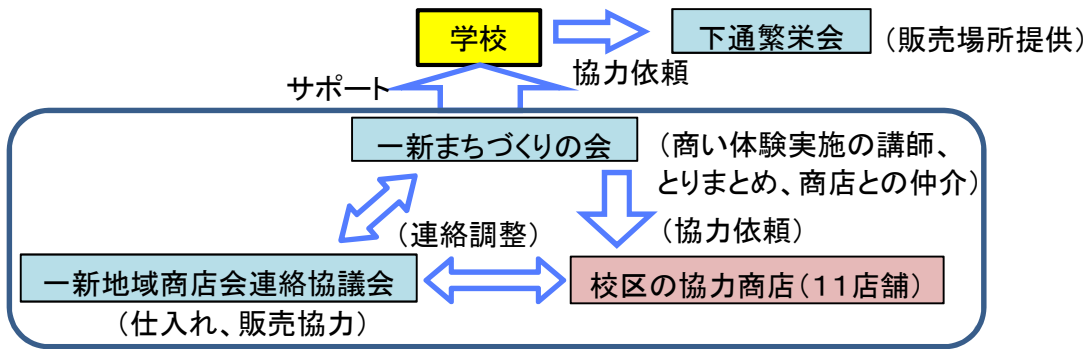


「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

1. 実施主体	
本事業を受託する教育委員会	熊本市教育委員会
2. 現状及び課題	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本市では、平成11年度から中学生を対象とした職場体験学習「ナイストライ事業」を開始し、翌年から全中学校で実施している。(中学2年生、3日間)。 ・ナイストライ活動における様々な体験活動や事前学習等を通して、勤労観・職業観や感謝する心などの豊かな心をはぐくみ、主体的・実践的な態度を培い、子どもたちの「生きる力」の育成を図っている。 ・小学校ではその前段階として、地域の職場見学や地域の産業の特色に関する調査学習などを行っている。
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・将来において、産業構造等の大きな変化が予測される。このような中、社会では必然的に新たな事業の創出や既存の事業の変革・改善が求められると予想される。しかしながら、職場体験学習では単一職種の業務体験が中心で、新たな産業や事業の創出、経営の模擬体験等といった活動の機会を確保することができていない現状がある。したがって熊本市の子どもたちに、起業が将来の生き方・働き方の選択肢の一つとなるような機会や学習モデルの構築が必要とされる。 ・地域のまちづくりや産業活性化といった視点から、関係団体等の協力を得ながら職業に関する学習を行う仕組みができていない学校が多く、先進的・継続的な取組を行っている学校のノウハウやネットワーク構築の方法を周知する必要がある。 ・中学校での職場体験学習をより充実させるために、小学校段階において、職業や産業、経済に関する系統的・体験的な学習の実施が望まれる。
3. 委託内容に対する取組	
実施する学校	<p>①熊本市立一新小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、城下町として栄えた新町の中にあり、新旧の商店街があり、かつ公共施設や文化財が多数存在している。 ・伝統ある学校として地域住民の本校に対する愛着や協力は並々ならぬものがあり、地元の商店街の協力を得て、職業体験学習を毎年実施している。
目標	○自他のよさを知り、生き生きと自己を表現する子どもの育成。
取組計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は「生きる力」=「どうにかする力」と捉え、どんなに困難なことに出遭っても、何とかしようとするたくましい心と思いやりのある優しい心をもった子どもの育成をめざしている。そこで、体験を通して地域の身近な産業や職業について学び、働くことの大切さや苦労を知り、生き方について考えさせるため、「商い体験」を核とした職業に関する総合的な体験学習を行う。

(1)学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



②授業をサポートする団体(予定でも可)

一新まちづくりの会、一新地域商店会連絡協議会、下通繁栄会

③取組内容

◆実施期間

平成28年12月～平成29年2月

◆教育課程上の位置づけ

総合的な学習の時間

◆教科とのつながり

国語科「伝え合う力」、社会科「職業観を明確にした授業づくり」道徳「働くことの意義を理解し公共のために役立とうとする態度と実践力の育成」特別活動「学校・学級の諸問題解決に向けた自己評価のあり方、行動化」

◆授業の進め方

総合的な学習の時間を中心として、23時間取り扱いとして実施する。授業においては「商い体験」に向けて、お店に出かけて商品やお店の方の工夫や苦勞を実施に聞く。また、商いの心得について講師として会社の経営者等を招聘して講話をしていただく。

出店に関しては授業(総合的な学習の時間)の中「接客」「商品選び」「開店準備」の3点について具体的にお店の方の指導を受ける。

「接客」については、ゲストティーチャーを招聘し、販売に関する基本的なマナーや知識、販売のテクニックについて指導していただく。教えてもらったことをもとに、自分たちで模擬販売体験を行い、さらに自分たちで調べて実際の販売につなげていく。

「商品選び」は、事前に保護者や児童、地域の方の嗜好や傾向などについてリサーチを行い、その後実際にお店に行き、自分たちの考えやリサーチ結果をもとに販売場所、客層を考えて商品を検討する。

「開店準備」も実際にお店に伺って、お店の商品や歴史をもとに雰囲気にあった看板、値段表、ポップ等の作成をする。また、お金の管理に必要な物品や店員の立ち位置についても学習する。

また、自分たちで商品や販売個数値段等を決めさせることで意欲を高める。

◆評価等

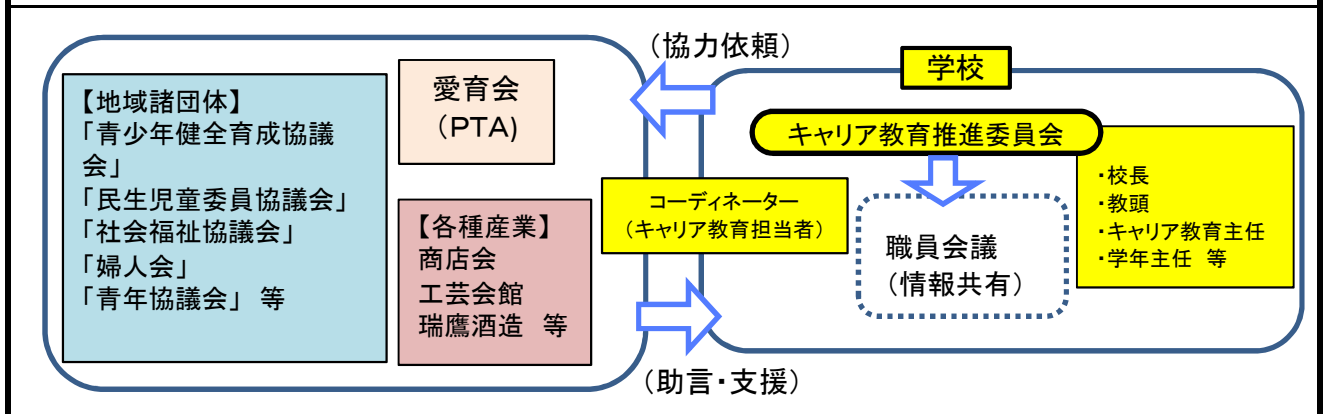
児童が販売体験前に立てた販売戦略をもとに、教師が実際の販売現場での活動の様子を見ながら評価を行う。また、販売結果について、商品選定や販売の場所等についてクロス集計を行うなどして、消費者ニーズの把握や販売の方法の省察を行う。

商い体験が6年の3学期に行う3年生からの地域学習の集大成であるので、小学校期間におけるその後の活動へのフィードバックは難しいが、生活の中で地域とのつながりがさらに深まり、地域の活動に積極的に参加するようになったり、自分の将来設計を主体的に行うようになったりすると考えられる。

実施する学校	②熊本市立川尻小学校 ・古くは港町として栄え、たくさんの人々が行き交う中で包丁や鎌などつくる刀鍛冶、すし桶・酒樽などを作る桶屋、または、和菓子屋などの商店が繁栄してきた。その伝統を継承するため町づくり人づくりの拠点として「くまもと工芸会館」が建設され、さまざまな取り組みがなされている。
目標	○川尻で働く人々の様子を季節ごとに調べることで、年間を通じた業務を理解し、計画的に物事を進める重要性を知る。 ○学習を通して、コミュニケーション力、情報収集力、分析力、資料活用能力、発表力などを育てる。 ○地域と連携し学習を進める中で、伝統継承の重要性、または、郷土愛等を育む。
取組計画	・学校PTAと協議し学校のキャリア教育方針を伝え、協力を仰ぐ。 ・地域諸団体や各店舗等と連携し、学校の方針等を伝える機会を持つ。 ・校内にて、各学年の教育過程を考え、計画する。また、学年相互の系統や発展性も考慮する。 ・定期的に進捗状況を確認するための連携会議を開催する。 ・キャリア教育推進のための研修会を開催する。

(1)学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



②授業をサポートする団体(予定でも可)

地域諸団体:「青少年健全育成協議会」「民生児童委員協議会」「社会福祉協議会」「婦人会」「青年協議会」等
 各種産業: 商店、工芸会館、瑞鷹酒造 等

③取組内容

◆総合的な学習(3～6年生 4～2月)

(3年生)町で働く人・・・各商店見学(社会科)→(総合)インタビュー、体験、記録、まとめ、報告
 (4年生)郷土の伝統・・・神宮例大祭[春・秋]→写生(図工)、準備委員会との連携(総合)、体験、記録、まとめ、報告

(5年生)伝統工芸、物づくり体験(社会・総合)

○インタビュー、物づくり、記録、まとめ、報告、わっしょい参加(地元の祭り)

- ・地域にある伝統工芸館の講師を招き、木椅子作り、ろうそく作り、皮細工、七宝焼き、ステンドグラス作り、独楽作りなどの作品制作を行い、感想などの交流をする。
- ・地域にある桶づくり、包丁など鍛冶、和菓子、染物職人の製作現場を訪ね、インタビューをする。また、その様子を記録し、図工の時間に絵画でも表現する。
- ・地域の青年協議会と地元の夏祭り「わっしょい」の企画(昨年度はお化け屋敷)を考え一緒に準備・運営・反省・改善をする。

(6年生)郷土の歴史(社会科) 商品開発、起業体験(総合)

○郷土の史跡めぐり(講師招聘)、伝統芸能・技術の研修(講話)体験、記録、まとめ、報告

- ・地域の歴史に詳しい講師を招聘し、実際に地域を歩きながら説明を聞いたり、質問に答えてもらったりする。さらに、地域の歴史を全国の歴史につなげて考える。
- ・地域にある桶づくり、包丁など鍛冶、和菓子、染物職人の製作現場を訪ね、実際に体験をしたり、その歴史を調べたり、ものづくりの技術や思いなどに触れたりして職人の生き方をさまざまなメディアをつかいてまとめ、発表する。
- ・地域の季節の変化を詳しく調べ、それに合わせた和菓子のデザインなどを地域の和菓子職人とコラボして提案していく。
- ・実際に商品化、販売ができない場合は、店舗や地域の商業施設等を利用して展示会を行い、地域の方から評価していただく。

◆その他(郷土愛の育成)

○学校緑化活動(ラックル君の活用) ※ラックル君;学校のシンボルツリー(ラクウショウ)の妖精
 ラックル君の地域活動応援イベントへの参加(愛育会との連携)

○旅する蝶「アサギマダラ」の飛来を促す活動

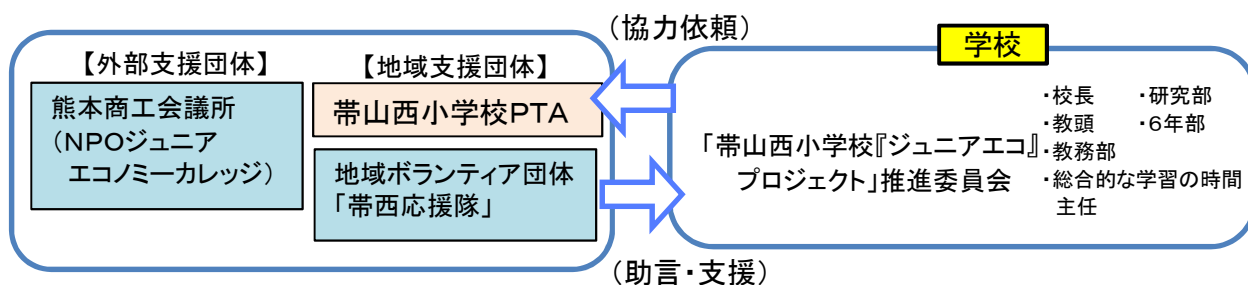
・シナワスレナグサ、フジバカマの育成(緑の少年団活動)

○まちづくり仕掛け人の活用(バードウォッチング・リバーウォッチング)

実施する学校	③熊本市立帯山西小学校 ・熊本市東部に広がる住宅地の中にあり、学校支援ボランティア団体「帯西応援隊」と連携した活動が、年間を通して実施されている。
目標	○本校の目指す子ども像は、「『問い』に気付き、自ら考え実行する子ども」である。 ○熊本市教育委員会「学力充実」研究指定校として、「21世紀型学力」を育むため、「探究」「協同」をキーワードに、アクティブ・ラーニングの研究実践に取り組む。 ○これからの実社会で活用できる「汎用的能力」の育成を目指す。
取組計画	・教育目標「『問い』に気付き、自ら考え実行する子ども」を目指して～“たい”が泳ぐ学校づくり～に向けての取組の中で、総合的な学習の時間を使って「起業体験活動」に取り組む。 ・実施に当たっての職員の負担軽減のため、保護者や地域住民、外部専門家との連携による実施に取り組む。 ・職員研修を実施し、「起業体験活動」の推進について全職員が共通理解できるようにする。(商工会議所、大学教授) ・全国の商工会議所を中心に展開されている「ジュニアエコノミーカレッジ」の取組を、学校のキャリア教育と連携して取り組む。(例「ジュニアエコノミーカレッジinおびにし」の開催)

(1) 学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



②授業をサポートする団体(予定でも可)

熊本商工会議所
NPOジュニアエコノミーカレッジ
帯山西小学校PTA
地域ボランティア団体「帯西応援隊」

③取組内容

◆実施期間

平成28年4月～平成29年3月まで

◆教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間

◆教科・科目とのつながり

社会科、家庭科、特別活動(学校行事)の学習との関連

◆授業の進め方

(1) 販売体験学習

- ・児童は、5人で1チームを編成し模擬株式会社を設立する(約20チームを想定)。
 - ・資本金10,000円、借入金10,000円の計20,000円を元手に、自分たちで考案・商品化したものを実際に商売する。(平成28年11月6日(日)の帯西まつり(地域とPTAが合同で行う行事)を予定している。)
 - ・販売体験終了後、決算書(損益計算書・貸借対照表)を作成し、税金、株主への配当、役員報酬を決定する。その後、事業を振り返り、株主と銀行に報告を行い事業が終了する。
- ※資本金・借入金については、PTAからの支援を受ける予定である。

(2) 外部講師の活用

ゲストティーチャー(熊本商工会議所/NPOジュニアエコノミーカレッジ)には、事前の学習として全体の概要説明や、具体的な商品企画・店作りプランについて、評価と助言をいただく。また、事後の学習として、販売事業のまとめや振り返りをご指導いただく予定である。また、帯山西小学校PTAと帯西応援隊には、実際に企画した商品の生産および販売の場面で協力と支援をいただく予定である。

(3) 評価

事業終了後、商品のアイデアや売り方、利益額などを総合的に評価し、優秀な結果を出したチームをグランプリ・準グランプリ・特別賞として表彰する。

◆校内研修の実施

起業家体験活動の意義について、大学教授等を招聘して職員研修を実施。

(2) 域内の学校に普及するための取組

①域内の学校への普及方法について

- キャリア教育担当者を対象とした講演や研修を行い、各学校への復講を通して周知を図る。
- モデル校における校内研修や体験学習を公開し、専門的な知識や先進的な取組のノウハウについて共有化を図る。
- モデル校における取組成果報告を行い、市内全学校に起業体験推進の方法と効果について周知を図る。

②地域・保護者等への周知方法について

- 学校より各家庭へ案内物を配布し、活動への周知を図る。
- 学習発表会等を通して活動の様子や成果を地域・保護者への周知を図る。
- 熊本市ホームページや地域ケーブルネットワーク、地域情報誌等のメディアを活用した広報活動を行う。

(3)その他の取組

特になし

4. スケジュール

実施時期	実施内容
4月	モデル校連絡会議の設置(取組の方法等について協議、確認)
4月	(各モデル校)年間計画作成、関係団体への協力依頼
5月	(各モデル校)関係団体との協議会開催、校内研修実施
5月～8月	(各モデル校)外部講師を招聘した校内研修実施
6月	【川尻小学校】地域商店における体験活動①
8月	モデル校連絡会議
9月	(各モデル校)関係団体との協議会②
10月	起業体験推進に関する講演会の実施(市内各学校キャリア教育担当者向け)
10月	(各モデル校)調査学習、体験学習準備
11月	【帯山西小学校】「ジュニアエコノミーカレッジinおびにし」実施
11月	【川尻小学校】起業体験(地場産業との連携)
12月	【一新小学校】児童と地域団体との打ち合わせ
1月	研究成果報告編集
2月	【一新小学校】「商い体験」実施
2月	【帯山西小学校】公開授業の実施
2月	(各モデル校)学習発表会の実施
2月	研究成果報告の完成、頒布

5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

【成果】

- ・経済活動体験を行うことにより、身の回りの生活における貨幣の流れや労働により「お金を稼ぐ」ことの価値について学ぶことができる。
- ・地域の産業、職業への理解を深め、郷土への愛着を深めることができる。
- ・仕入れや広報、決算まで含めた一貫した商業体験を行うことで、既存の事業所での職業体験では得られない経営・起業への意欲を喚起することができる。
- ・模擬店出店等を通して、職業的スキルだけでなく、経営に関する知識や感覚、コミュニケーション力等を身につけることができる。
- ・各モデル校の取組を全市的に周知することで、市内各学校における地域団体と学校との連携を強化し、児童生徒が地域産業における体験活動の機会の充実が図られる。
- ・起業に関する学習を通して地域の事業所や職業の認識が深まり、中学校での職場体験学習の深まりが見込まれる。

【検証方法】

- ・事前・事後の児童アンケート実施
- ・学習成果発表会におけるまとめ・発表
- ・各モデル校の取組に対する市内各校からの意見集約